

光明寺だより

第86号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550

Tel 0897-53-4583

「住職継職奉告法要」盛大にとまる !



夜半から降り始めた雨もすっかり上がった5月21日、定刻の午前10時30分より、光明寺本堂において「住職継職奉告法要」が執り行われました。

宗会議員・成川和行氏、四州教区教務所長・佐々木孝昭氏のご臨席を頂き、80余名の参拝者の見守る中、新住職（釋一心）導師のもと、西条組内寺院14名の僧侶によるお勤めが執り行われました。読経の聲が堂内に響き渡り、組内寺院の一紙乱れぬ作法に堂内は大変厳粛な雰囲気にもまれ、深い感動を呼ぶ法要になりました。

午後からは、会場をベルフォーレ西条に移し、宗門関係の僧侶や檀家の方々に加え、西条市内の若手僧侶、各種関係の方々にお集まりいただき、「継職記念祝賀会」が営まれました。

来賓の方々のご挨拶に続き、新住職の「皆様の期待にこたえられるような住職を目指して精進努力していきたい」という固い決意の挨拶があり、そのあと鏡割り、“越智將文&阿部一成”のバンド演奏など、祝賀会場はお祝いムード一色に包まれました。最後に責任役員・森本隆雄氏より「新体制なった光明寺を引き続きよろしく願います」という挨拶をいただき、華やかなうちに一連の行事が無事終了いたしました。 (*関連記事4ページ)

一口法話



(1) 与えられたものを受け取る

お念仏に生きる人々の生き方には共通して大きな特徴があります。

それは「与えられたものを喜んで素直に受け取る」という生き方です。

ここで言う与えられたものとは、私に關わるすべての「もの」と「こと」のことです。それは例えば、富や健康や名声や幸福であったり、逆に貧乏、病氣、不名誉、不幸といったものであります。

よく世間では、「吉凶禍福は神や仏が与える」と言われますが、お念仏の教えには、そのような考え方はありません。

それでは、誰が吉凶禍福を与えるのかと言いますと、しいて言えば「一大道理」が与えたということになります。

一大道理とは、誰が作ったのでもない、この宇宙大自然を貫く不変の法則・真理のことです。仏教ではこの道理を「因果の道理」とか「縁起の法則」と申します。

つまり、与えられたものは、誰かが与えたのではなく、因果必然の道理として、こうなるべくしてこうなったと見ていくのが仏教の立場です。

「こうなったのは、こうならねばならぬ一

大道理（因果必然の道理）があったのだ」ということです。

ところが、私たちは自分にとって都合の良いものを与えられると喜んで受け取りますが、都合の悪いものを与えられた時は、中々素直には受け取れません。まして喜んで受け取ることなど到底出来ません。

しかしここなんです。たとえ自分にとって都合なものであっても、それを受け取っていくのです。

なぜなら、すでに与えられたことが一大道理だからです。そうならねばならぬわけがあつてそうだったので。ですから、それを受け取って生きていく以外に、私の生きる場所はないんだと見極めることが道理にかなつた智慧ある生き方なのです。

確かに、気に入らないものを喜んで受け取ることは大変困難なことでありますが、親鸞聖人は「与えられたものを引き受けて、その中で自分のいのちが尽せるような、そういう生き方が出来るということが（助かった）ということだ」と明らかに告示してくださっているのです。

ここで、お念仏の教えに生きた方々の言葉を紹介します。

★自分の背負わねばならない荷物を背負つて力一杯生きていける身になるーそれが浄土真宗でいう、親鸞聖人の仰る（助かった）ということですよ

大谷派僧侶・松扉哲雄

★南無阿弥陀仏は、そうだったわけがあつたということに、素直に従うていくんです。

念仏は、（はい）なんです。ただということ、は、はからいが入らないんです。ただ（はい）ですよ

山腰大樹

★人から見たらあんな気の毒な人はおらんというような境遇になつても、それを一つも苦しんだり悩んだりする必要のない心を頂戴出来た姿を、浄土真宗でおたすけといふんです

山腰大樹

★お念仏の世界は、どうなすか、どうなるかではなく、なっていることをいただくのです

西教恵

★念仏は、私に、ただいまの身を納得していただく力を与えて下さる

鈴木章子

★すべてがよかつた。すべてを受け取る

塩尻うめ

★ようこそようこそ南無阿弥陀仏

足利源左

これらの言葉から、念仏者の生き方というものが、お分かり頂けると思っています。

まさに、現在安住…与えられた現在に満足する…の生き方と言えるでしょう。



(2) 分別智と無分別智

『仏教説話大系』の中に次のような話があります。

・・アメリカはアリゾナ州・カイバブ高原の自然公園における話である。

公園当局は四千頭しかいなかったシカを増やしたいと思った。それで、シカの天敵であるピューマやコヨーテ、オオカミを次々と殺してしまった。

その結果、確かにシカは増えた。十年後には四千頭が十万頭にまでなったという。だが、そのような状態は長続きしなかった。増えすぎたシカが草木を食べ尽くして若い芽まで食べてしまったために、土地の再生能力がなくなってしまったのである。そのため、十万頭のシカが絶滅寸前まで激減したという。

なるほど、肉食獣はシカの敵である。敵はない方がよい、と我々は考えてしまう。しかし、自然の摂理はその敵の存在を必要としているのである。我々の小さな知恵で、敵の存在は不必要だと考えると、とんでもない失敗をするはめになる。あれは必要、これは不必要などと差別してはならない……

以上のような説話です。
人間の智恵の浅はかさを物語る教訓的な例話です。

この知恵を仏教では「分別智」と言います。どのような知恵かと言えば、自分の都合とどのモノサシを使って、「敵じゃ味方じゃ」、「エエ人じゃ悪い人じゃ」、「きれいじゃ汚いじゃ」、「年寄りじゃ若い者じゃ」、「益虫じゃ害虫じゃ」等々と、あらゆるものを分類し、比較し、邪魔なもの（自分にとって）を排除していくというものです。

カイバブ自然公園の肉食獣たちも、こうした理屈で排除（殺害）された訳です。しかも、増やそうと思っていたシカまでも絶滅寸前に追いやるという、お粗末な結果を招いているのです。

このように、自分の都合というモノサシは、独りよがりになるため、どうしても傷つくものが出てくるのです。人間の知恵は末通らない（不徹底・中途半端）と言われる所以です。

仏さまは、そんな私たちに、「そのモノサシを捨てて、ありのままにものを見なさい（如実知見）」と仰るのです。

そうすれば、あらゆるものが平等で、排除すべきものは何一つないということが分かるのです。

この智慧を仏教では「無分別智」と言います。これが仏さまの智慧です。

もとより、モノサシを捨てられない我々には身につけることの出来ない智慧です。しかし、ここで大事なことは無分別智と

いう智慧を知ることによって、我々人間の知恵が分別智だと、分かるということです。つまり、無分別智は分別智を照らし出す「鏡」のハタラクをするのです。

その鏡に照らし出されると、「ああ、何と愚かなことをしているんだ」という深い反省の心（慚愧）が生まれてきます。そうして「そうだった、そうだった、この世に邪魔なもの、捨てねばならないものなど何一つなかったのだ。すべてのもの（事と物）が、私にとってなくてはならないものばかりだったのだ」という見方が生まれてくるのです。

まさに、真実（無分別智）は不実（分別智）の相（姿）を照らし出すと同時に、目覚めを促すハタラクを備えているのです。

無分別智という真実なるものの巧みなハタラク（善巧方便）によって、私たちは分別智を絶たずして、無分別智を得ることが出来るのです。

「不断煩惱得涅槃」（煩惱を絶たずして、涅槃を得る）であります。



(3)

平成26年7月

光明寺だより

86号



住職継職奉告法要・継職祝賀会



法要風景



縁儀入堂一外陣より内陣へ入堂する諸僧



新住職の挨拶（法要終了後）



本山よりの祝辞伝達式一教務所長執行



新・旧住職に来賓を交えての鏡割り



祝賀会場の風景



【新住職就任挨拶】

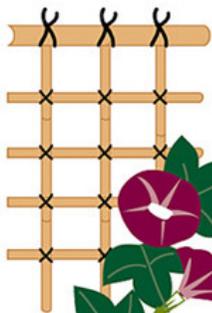
この度、父の跡を継ぎ、光明寺23代目住職を継職させていただくことになりました。私自身まだまだ人生経験も乏しく、住職としての心構えも、十分に出来ておりません。そのことを思いますと、果たして無事、住職が務まるだろうかと、不安で一杯です。住職にとって最も大切なことは、お念仏のみ教えを通して、ご門徒の皆様方と深い信頼関係を築いていくことだと思います。

これからは、皆様方からお寄せいただいた励ましやアドバイスをしっかりと受け止め、ご期待に応えられるような住職を目指して、精進努力していく所存であります。

どうか、今後とも末永くお目通りいただき、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。（要旨）

新盆合同追悼法要

8月13日・14日



両日とも

1回目・・・午後6時30分より

2回目・・・午後8時より

★ご案内の時間までにお越し下さい

彼岸会法座

9月27日(土)

おつとめ 午後1時30分

おはなし 午後2時

【講師】 備後教区法光寺住職

季平博昭先生



趣味の広場



俳句を楽しむ (六十五)

森本隆を

去る五月二十一日には我が光明寺の住職繼職法要が厳肅なうちにもつつがなく執り営まれ、新住職の御披露目を兼ねた祝賀の宴も盛大に行われて、若々しさみなぎる新体制が目出度くとのいました。檀信徒の皆様方の御理解と御協力の賜物とも言える一大行事でありましたが、その華やかな雰囲気もさめぬ間に梅雨入り、そしてこの「光明寺だより」が皆様方のもとに届く頃には梅雨も明ける頃と思います。誠に月日のたつのは早いものです。いよいよ盛夏、連日の猛暑に耐える日々です。

俳句の世界でもこの時期の季語としては、時候の部に「暑し」、「大暑」、「炎昼」、「土用」、「極暑」、「炎暑」、「灼くる」、などと、見ただけでも暑そうな語が並んでいます。天文の部にも「日盛り」、「炎天」、「油照り」とうんざりするようなものがあります。俳句界の先人達も気力でこの季節に立ち向かい、猛暑に耐えて命をつなぐ自然を見つめ、自分の日々の暮しに句材を見つけ、夏の季節感を句にしています。今回はいわば近代俳句の先達ともいわれる人たちの、真夏の句をあげてみます。

香炷たいて独り居の暑しのを凌しのぎをり 石井斐子
寝返りを打って暑さを柔ならげる 田村すむ
暑き日の仔犬の舌したの薄きこと 中村草田男
暑さに耐えている自分自身を詠み、この暑さの中で生きる仔犬に向けるやさしい視線、決して暑さに参まったりへこたれたりしていませんね。

山起き伏して乱れなき大暑かな 飯田龍太
国中の猛暑を集め甲斐盆地 有馬朗人
さわさわと土用太郎の山の音 野島惠禾
猛烈な暑さの中でも悠々と見える大自然の姿を詠んだ、スケールの大きい句です。しかしどの句にも作者自身が感じている、やり切れぬほどの暑さが充分にただよっています。こういう、夏の暑い一日の自然の大景を一瞬のうちにとらえて詠みとどめた俳句といえば、やはり次の一句につきるのではないでしょう。

暑き日を海に入れたり最上川 芭蕉
一読しただけで壮大なスケールの風景が目には浮かびますね。前景に日本三急流の一つ最上川の豊かな流れを置いて、はるか彼方の日本海の水平線に沈みゆく夕陽がまっ赤です。人間界のこまごました事物をいっさいがっさいまとめて西の海に沈めて一日の終りを告げる自然の運行をわずか十七文字で詠みきつた、さすが「俳聖」と呼ばれる芭蕉のすごさを感じます。これを越える句は果たして今後生まれるのか、とさえ思える句です。

さて、自然に比べるといかにも小さい人間の日々の営みを巧みに詠んだ句にも、ずい分と人々に知られる佳句もあります。

熱帯夜こむら返りに目のさめて 田所節子
父よ久し大暑の墓に歩み寄る 伊藤虚舟
薬草の湯に子を浸ひたす炎暑かな 福田甲子雄
これよりの炎ゆる百日セロリ噛かむ 野澤節子
鉄棒といふ直線の灼けており 永野佐和
いづれも真夏の生活の中のひとコマとして身におぼえのある経験を素直に詠んだ句で、わかり易く実感をともしなう作品です。しかも、生きる人間の夏に負けていない、意思というかころのようなものを、うっすら感じさせられます。

そして何十日か暑さに向かう日を過すうち、ある一瞬、心に涼しさを感じる日がきます。大の字に寝て涼しさよ淋しさよ 一茶
み仏に少し離れてあて涼し 倉田紘文
髪束たばねくりて衿の涼しさよ 永六輔
今は昔ほど「夏負け」、「夏やせ」といった話を聞きませぬ。いよいよ夏の盛りの日々を迎えます。気分が暑さに参らぬよう、自分流の夏の過ごし方を工夫して、今年の夏を乗り切りましょう。

合掌



位職書作品



語句―不断煩惱得涅槃
詠み方―煩惱を断ぜずして涅槃を得る

〈正信偈の一節〉



『建築巡礼88』

BOOK 本

制作 南の風社
発行 日本建築家協会四国支部
定価 1000円 + 税

本書は日本建築家協会四国支部によって創設された建築巡礼四国八十八カ所特別委員会が、人々に感動を与える建築作品を探し出し、厳正な選考を経て、88の建築作品を取り上げ、ガイドブックにしたものです。

タイトルの通り四国霊場八十八カ所にちなんで、愛媛県22カ所、香川県23カ所、徳島県20カ所、高知県23カ所、合わせて88カ所の建築物を紹介しています。

序文に次のような一文が掲載されています。

…木造の小さなお堂からコンクリートの高層建築まで実に様々な建築作品が含まれているが、いずれも訪れる人々に、精神性を感じさせてくれる現在の建築札所である…。

心に残る詩

ありがとう

ありがとうと
 こころのなかで
 つぶやいた
 だれにむかってか
 なににたいしてか
 わからない ただ
 じぶんがいまここに
 こうしていることが
 とほうもなく
 おおきくて
 ふしぎなことだから
 ありがとう

産経新聞「朝の詩」より



言葉のプレゼント

仏法を聴くと煩惱がなくなる
 ではありません
 「煩惱はなくなるらない」と
 教えていただけるのです



光明寺のホームページ

西条光明寺

または

南岳山光明寺

検索



「光明寺だより」をご家族の皆さんで
お読みください

次回発行予定・・・11月下旬



★3月22日(土) 小林顯英先生をお
 迎えて、春の彼岸会法座が開催さ
 れました。
 ★5月21日(水) 住職継職奉告法要・
 継職祝賀会が執り行なわれました。
 多くの方々にお集まりいただき、大
 変盛大に執り行われました。
 (* 関連記事1・4ページ)
 ★住職継職実行委員会より新任職に、
 記念五条袈裟が贈呈されました。委
 員会の皆様のご温情に厚く御礼申し
 上げます。
 ★6月6日、本山において法灯継承
 式が執り行われました。専如新門さ
 まが、本願寺第25代門主に就任され
 ました。全国より八千人の参拝があ
 りました。

